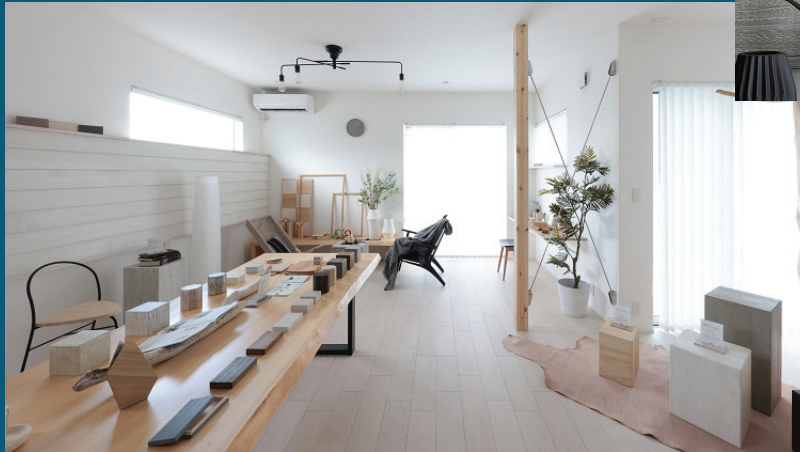


特別企画
この**建材**が
凄い
冬期



木目を際立たせた塗装
「シャイニーウッド」



分譲住宅の一面に設け
られたアンテナモデル

200棟を超える分譲住宅で採用予定

桐パネル「KIRINOKA」

ポラスグループ 中央住宅 厚川産業（埼玉県）

箱、^{たんす}箆^げなどの材料として日本人の暮らしに深くかかわってきた桐。福島県などの産地が知られているものの、統計※によると国産の桐材の生産は昭和34年の約3万㎡をピークに減少の一途をたどり、現在では、ピーク時の1%未満(200㎡、令和2年)となり、輸入材に頼らざるを得ない状況となっている。桐を使った伝統的工芸品としては、8都道府県で10品目が国の指定を受けており、埼玉県春日部市などの県東

部も主要な産地の一つ。日光東照宮の造営に携わった匠たちが住み着いて技が受け継がれてきた。同地域では、平成25年に桐を使った内装用^{たくみ}無垢パネルを地元の組合と事業者が共同開発。今年度は200棟を超える分譲住宅で採用を予定している。供給量の多い戸建分譲住宅の壁材に採用されることで、桐の木素材としての有用性が改めて認知される機会が増え、地域連携の輪が広がろうとしている。

※農林水産省「令和2年 特用林産基礎資料：桐の生産量・面積」
※財務省貿易統計 輸入量：1万1401㎡（丸太他製材、加工材も含む）



厚川産業（事務所・工場）



約 30 年経った桐の断面

10 年越しの共同開発

桐パネルを製造する厚川産業(株) (本社：埼玉県吉川市、厚川秀樹 代表取締役 / 以下、厚川産業) は地元的主要メーカーの一つ。明治 31 年、ひな人形の桐箱の製造業として創業した同社は、現在は住宅建材やシステム収納を生産。材料としては工業製品のパーティクルボードが多くを占め、ハウスメーカー、ビルダー、設計事務所等からの注文を受けて製造を行っている。創業以来続けてきた桐製品に再び力を入れるようになったきっかけは、今から 10 年ほど前のこと。Web ショップ開設を契機とした桐製品の開発で、平成 23 (2011) 年に埼玉県の経営革新計画の承認を受け、翌年には秋田県雄勝広域森林組合との連携事業を



厚川産業(株) 厚川秀樹 社長

開始、国産杉の産地との連携を図ることで、桐製品を原点から学びなおす機会となった。その後、同組合による桐の生産・供給は、厳しさを増す中、できなくなったものの、厚川産業は試行錯誤を重ねながら開発を続け、埼玉県の地元住宅事業者であるポラスグループ (株) 中央住宅 (本社：埼玉県越谷市、品川典久 代表取締役社長 / 以下、中央住宅) と平成 23 年より取引を開始。杉を用いた壁パネルなどで少しずつ採用実績を増やし、平成 25 年には内装用無垢桐パネル「KIRINOKA」を共同で開発。同社の分譲住宅ではこれまで約 1000 棟に採用されている。

桐は「娘が生まれたら桐を植えると嫁入り箆箆がつくれる」と言われたほどの早生樹であり、20 年もすると 40 ~ 50 年生の杉ほどの年輪となる。表層が軟らかく、空気が多く含まれるため軽量であり、火事の際に軽くて運びやすい、水をかけると水を吸いやすいので火にも強い、タンニンが多く含まれるので防虫効果があることなどで重宝された。

同社のショールームには、和室・洋

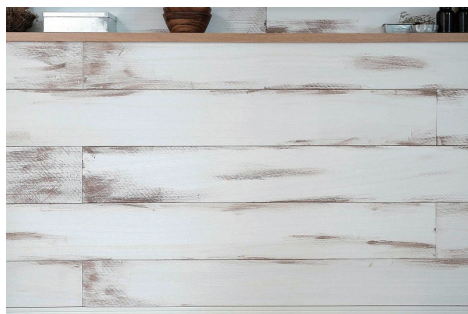


プレーナーで桐材をカット

室向けの家具や、床の間用のパネル、内装ドア、断熱材付きの床パネル、観葉植物の鉢植えの側板など、桐の諸特性を活かした様々な試作品が展示されており、訪れた設計者やデザイナーのアイデアを喚起するように工夫されている。しかし、昨今では工業製品の普及により、一定の表面強度を持つ材料が求められる傾向があり、軟らかくて傷がつきやすい桐材の特性が、インテリア向けには、敬遠されることもある。

傷をデザインする壁パネル

共同開発した壁用の桐パネル「KIRINOKA」においては、「傷を避けるのではなく、傷をデザインする」ということに力点を置いて開発。浮造り加工の程度、色柄のライ



専用のブラシで浮造り加工もできる

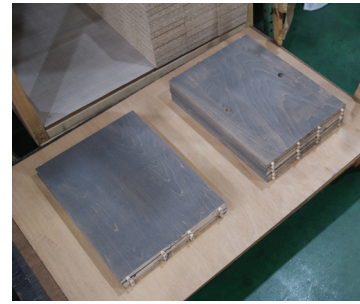
ンナップ、塗料の選定・塗装方法を繰り返し協議し、暮らしの中で付く傷が気にならないような製品を開発した。

製造ラインは従来の家具製品で用いてきたNC制御機械加工を応用し、サンダーによる浮造り加工や、材質にあわせた多重塗装などの塗装方法や塗装の選定を行っており、取っ手などの加工は、手加工による丁寧な仕上げにもこだわっている。

また、厚川産業は、地元の組合である春日部桐箱工業協同組合の主要メーカーでもあり、組合の活動として、桐の住宅用パネル「KIRINOKA」と平行して、テイストに合わせた桐箱製品を中央住宅の声かけにより同社と共同開発。桐の住宅用パネルとデザイン的に調和する新しい桐のインテリア雑貨「KIRIHAKO」を開発し、大手通販サ



「KIRINOKA」(左)と「KIRIHAKO」(右) 加工精度は0.1mm単位 手作業の仕上げも



塗装工程では、桐材のグレード別に塗装方法を分けている

イトの他、ポラスグループ（株）住宅資材センターなどで販売する予定。「KIRIHAKO」の製造は厚川産業以外の組合員の木工所・製作所が部材製作を担当し、厚川産業で完成させる。現在の厚川産業の桐製品の売上は、売上全体の10分の1に満たない額ではあるものの、同社では桐製品を軸に、産学官のさまざまな事業者との連携を図ることで、地域産業振興の一助としての役割を担っていききたいという。

分譲地でアンテナモデル

ポラスグループ 中央住宅が、8月より販売開始した分譲地「フレーベスト新河岸 WA plus」では、モデルハウスの1棟を桐製品展示のためのアンテナモデルとした。



残材を再利用できるように梱包

室内のテーブルには、様々なデザインや色合いの桐のインテリア雑貨「KIRIHAKO」が陳列されており、桐パネル「KIRINOKA」の仕上がり、柱・壁の納まりなどを実際に見て室内空間を体感することができる。

アンテナモデルの壁面は、^{さね}実加工を施した桐ラインパネル「ピュアライン」で仕上がっており、その他にも、自然派オイルステインによるナチュラルな色合いの「シルキーウッド」（全10色）や、牛乳成分のミルクペイントによる二重塗装を施した「シャビーウッド」（全7色）、オリジナル塗装により木目を際立たせた「シャイニーウッド」（全6色）の各ラインアップの色柄を、サンプルの木材やインテリア雑貨「KIRIHAKO」で見ることができる。



アンテナモデルの内観